

Architecture Study Guide

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース

神奈川県
建築学部

Kanagawa University
Faculty of
Architecture and
Building Engineering

神奈川県大学院
工学研究科 建築学専攻

Kanagawa University
Graduate School of Engineering,
Department of Architecture and
Building Engineering

JINDAI KENCHIKU 2024+



神奈川県立神奈川大学建築学部の教育理念と学びについて

神奈川県立神奈川大学建築学科は、1965年4月に工学部の新学科として誕生しました。

創設の中心人物は、初代学科長でもあった谷口忠先生でした。

谷口先生は、それまで東京工業大学教授として地震工学の研究と教育に従事し、

その中で大自然の法則や社会の多様な仕組み、そして、真の幸福という「真・善・美」を知り得た人こそ

建築家にふさわしいという建築哲学を主張していました。本建築学科の開設にあたっては、

「最近の建築教育は、単なる知識と技術を授けた職人の養成に終わっているように思われる。

社会科学と精神科学の一致した広い視野に立って総合的な見解を持つ建築技術者の養成こそ急務だ」と、

単なる技術者教育を否定し、豊かな知識と教養を備えた魅力的な人間教育を目指すとして教育方針を述べています。

これは、新たなる技術者教育を目指す先見の明といえる主張でした。

そして、本建築学科はこの考えを教育理念としてきたのです。

2022年4月、建築学科はさらなる発展を目指し、建築学部生まれ変わりました。

創設以来の教育理念の実現化に向け、新たな教育体制・教育環境に移行するためです。

地球環境の悪化による自然災害の増加や人口減少などの社会構造の変化の中で、

現代社会はこれまでにない新たな解決すべき課題を抱えています。

こうした複雑な課題に対応するためには、これまでの建築技術者ではなく、人間愛に溢れ、

かつ、学際的な豊かな知識と教養を兼ね備えた“建築専門家”が求められているのです。

それは、まさに本建築学部の教育理念に則した人材そのものなのです。

本建築学部では、建築とは、「さまざまな機能(使われ方)と諸技術、そして美とを調整し、

それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、

安全で快適、かつ感動を呼ぶ空間や形態・環境を創造すること」を目的とした活動と考えています。

そのため、建築を学ぶことは、人間とその営み(社会・経済・文化など)から科学や技術まで、

極めて幅の広い分野を学ぶことになります。

みなさんの本建築学部での目標は、4年間しっかり学び、建築を武器とする建築専門家となることです。

そして、ここでの学びを基礎とし、さらに大学院への進学、あるいは、実社会での研鑽を積みながら、

さらなる成長を続けてください。

02	Foreword 神奈川県立神奈川大学建築学部の 教育理念と学びについて
04	Features 建築学部の特色
06	Graduate School [進学] 大学院でより深く広く学ぶ
08	Faculty Members 教員紹介
25	Facilities 施設紹介
26	Career Choice by Graduates [就職] OB/OG インタビュー

学部の特徴

01

2つの学系、
5つのコース

入試時に選択した「建築学系」あるいは「都市生活学系」に所属し、2年次前期までは、学部の必修科目などを通して建築学部の多彩なフィールドを幅広く学ぶと同時に、各学系に用意される基礎科目、専門科目を学んでいきます。2年次後期からは各コースに所属し、専門性を深めます。建築学系の学生は「構造コース」「環境コース」「デザインコース」から、都市生活学系の学生は「デザインコース」「住生活創造コース」「まち再生コース」から、コースを選択します。

構造コース | Structural Engineering

>> P.09

地震や台風が強く、経済的で合理的、環境に配慮した美しい建物をつくり、残す。そのために必要な新しい構工法や材料、構造解析の技術を学びます。

環境コース | Environment

>> P.12

環境負荷に配慮しつつ、熱、空気、音、光などの要素からなる建築内外の環境を良好に創出する。そのための知識や技術について学びます。

デザインコース | Design

>> P.15

建築計画の基礎知識、デザイン理論や手法、建築史などを幅広く実践的に修得する。持続可能な社会を実現する、建築の新たなデザインを学びます。

住生活創造コース | Habitation Design

>> P.18

人間の暮らしや住まいのかたちについて、家族、地域社会、地球環境という多角的な視点から見つめ、提案する。住まいの歴史、住宅設計、生活環境のデザインなどを幅広く学びます。

まち再生コース | Town Regeneration

>> P.21

人とまちの関係性を見つめ、新たな「まち」のあり方を考える。既存概念にとらわれず建築や都市のあり方を提案できる知識や技術を学びます。

建築学系

都市生活学系

学部の特徴

02

独自の
プログラム

興味や将来目指すキャリアに合わせて、コースを横断して自由に選択できる独自のプログラムを設置しています。コースに所属し、専門に関する目的意識を持ちながら、複数の専門領域にまたがる興味深いトピックを深く学ぶことができます。プログラム修了者には認定証を授与。

防災
まちづくり
プログラム

少子・高齢化、グローバル化など、多様な社会の現状や課題を理解し、これからの都市や地域のあり方を広く構想。加えて自然災害や、建築・都市の防災技術を学究するプログラムです。

こんな職業を目指す人に

建築士、建築設備士、建築施工管理技士、国家公務員、地方公務員など

環境共生
プログラム

快適な環境のための知識や技術だけでなく、エネルギー・資源・廃棄物などに関する配慮、周辺の自然環境との調和などに関する知識や技術、計画力まで修得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に

環境コンサルタント、建築士、建築設備士、国家公務員、地方公務員など

ものづくり
プログラム

建築や生活空間に関わるインテリアなどについて、実物を制作することで得られる体験と技術の修得を中心に、ものづくりやデザインに関わる知識を体得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に

インテリアデザイナー、家具デザイナー、建築家、造形作家、職人など

文化芸術
プログラム

建築のみならず美術やデザインの歴史や理論、さらにはアート・マネジメントなどに関する学修を通じて、文化芸術としての建築について深く学ぶプログラムです。

こんな職業を目指す人に

学芸員、編集者・評論家・建築ジャーナリスト、建築史家、デザイン研究者など

建築ストック
活用
プログラム

持続可能な社会の実現を目指し、スクラップアンドビルドではなく、既存建物の価値を見出すとともに、社会ニーズや新たなライフスタイルに対応する手法と知識を学ぶプログラムです。

こんな職業を目指す人に

ファシリティマネジメント、不動産コンサルタント、保存再生・改修の専門家など

建築生産
プログラム

建物を構成する各種構造システムを理解し、それらを生産する上で必要なオペレーティングリサーチや、品質管理手法などに関する知識や技術、計画力まで修得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に

建築施工管理技士、土木施工管理技士、コンストラクション・マネジャーなど

[進学] 大学院でより深く学ぶ

神奈川大学大学院建築学専攻は、創設から50余年を数える歴史ある教育研究機関です。創設以来、建築・都市を巡る広い分野で活躍する優れた人材を輩出し続けています。変革期に差し掛かっている日本ですが、建築分野もその例外ではありません。

新時代の建築・都市分野で指導的な役割を担う素養を身につけるためには、基礎的な学習にとどまらず、新たな要請に応える方法を創出できるような、深い理解に基づいた思考や応用力が求められます。

本学大学院では、社会での活躍に向けた実践的な教育環境を用意しています。

神奈川大学大学院への進学は、積極的なスキルアップを目指すみなさんに開かれています。

Graduate School

01

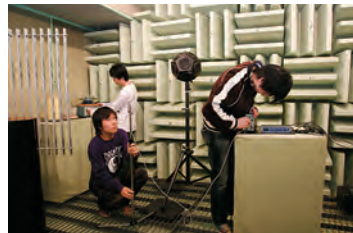
一級建築士登録資格を
大学院修了で取得できる

大学の建築学科などを卒業すると一級建築士の受験資格が得られます。しかし、一級建築士試験に合格できたとしても、すぐに一級建築士として免許登録ができるわけではありません。卒業後2年の建築実務経験を経て、はじめて登録資格が得られるのです。

本学大学院建築学専攻では、定められた科目を履修することで最大2年間の建築実務経験が認められます。つまり、大学院を修了したその年に、一級建築士の免許登録要件を満たすことも可能です。



1



2

Graduate School

02

海外留学や
国際ワークショップで
世界に出る

[派遣交換留学協定大学]

国立台湾科技大学

ケルン工科大学

フランス国立モンペリエ高等建築学校

ルツェルン応用科学芸術大学 工学・建築学部

南フロリダ大学、他



3



4

韓国、台湾、中国、タイなどの大学が連携して行う「東アジア大学建築都市学術交流セミナー」に参加して諸外国の学生達と議論やワークショップを行う、提携する海外の大学に留学するなど、グローバルな活躍へ向けたチャンスがたくさん用意されています。留学提携先を年々拡げていくなど、継続的な国際競争力の強化に努めています。

Graduate School

03

社会とつながり
実践力を磨く

通常の講義や研究活動に加え、東日本大震災被災地での地域住民や行政と連携した復興支援の取り組みや、横浜市あるいは地元商店街と協働した地域振興の取り組みなど、さまざまな組織と連携した学外での調査研究や設計提案を行っています。

こうした実社会と直結した活動を通して、建築の新たな価値が模索されている「ポスト3.11社会」において即戦力となる人材育成を行っています。



5



6

Graduate School

04

さまざまな仕組みで
修学をサポート

本学独自の米田吉盛教育奨学金の中には、大学院給費生制度、修学支援奨学金などの他、神奈川大学出身者向けの出身者支援奨学金や、海外への留学生向けの海外活動支援奨学金といった、幅広い制度が用意されています。

加えて、日本学生支援機構奨学金や、本学OB会「宮陵会」による奨学金など、さまざまなタイプの仕組みで修学をサポートしていきます。

Graduate School

05

大学院での経験で
より広がる活躍の場

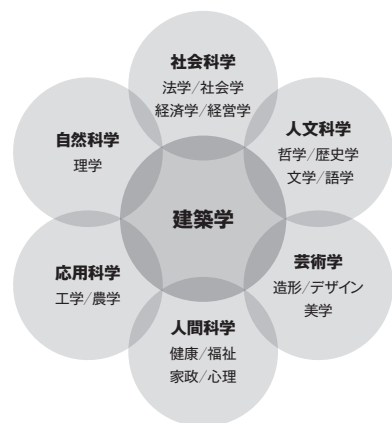
大学院でのより専門的、実践的な学習により、卒業後に活躍する場所の選択肢も格段に広がります。在学中に行った学外の組織との連携活動や海外での活動がきっかけとなって、新たな就職先との出会いが生まれることも少なくありません。

1 被災地の震災前の復元模型を製作、後日住民とのワークショップに使用した | 2 無響室での音響実験 | 3 留学提携校のスタジオ

4 東アジア大学建築都市学術交流セミナーでのワークショップ | 5 東日本大震災の被災地調査 | 6 動的試験装置を用いた実大実験

教員紹介

神奈川大学建築学部では、これまでの建築学だけでなく、社会科学、人文科学、芸術学、人間科学、自然科学、応用科学など幅広い分野を学び、より包括的な意味での「建築学」を理解し、課題解決能力を修得することで、空間、環境、安全性、生活、まちなどに対する専門性と技術を持つ「建築専門家」を目指します。そのために、各分野のスペシャリストが教鞭を執り、5つのコースには多彩な研究室がそろっています。



Structural Engineering

[構造コース]

建築物には、先端科学技術を駆使した構法やコンピュータシステムによる構造解析など、多くの理工学的成果が取り入れられています。構造コースでは、人命を守るという「安全」だけでなく、生活上の「安心」が得られるよう、災害リスク、構造安全性、継続性など建築に関わる理工学的側面に主眼を置いた学修を目指します。



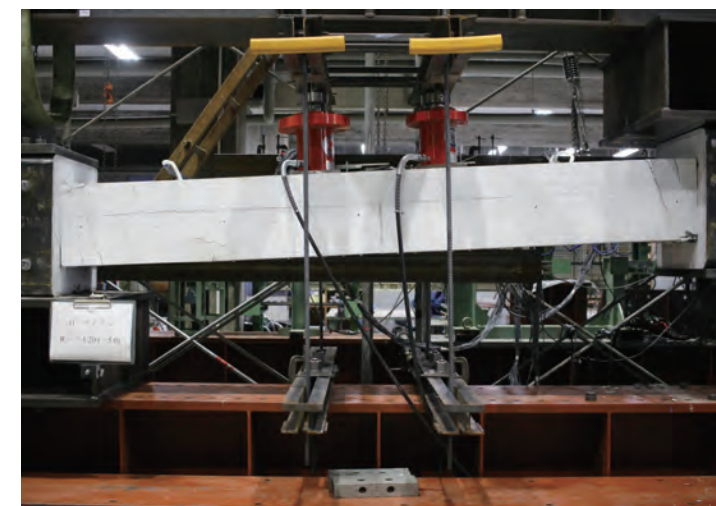
島崎和司 | SHIMAZAKI Kazushi



構造コース
新機能型構法研究室 教授
[担当授業]
建築の構工法、鉄筋コンクリート構造、
鉄筋コンクリート構造の設計演習 他
[部屋番号] 12-35

建物の耐久性や要求される機能を満足させ、美的である建物をつくるには、どのような材料や構造システムを用いるのが最も合理的であるのか、そういったことを考えています。最近では、いかに巨大地震に対しても建物被害を最小に食い止めて継続使用できるものにするかという考え方が主流になり、鉄筋コンクリート部材の内部に制振機能を組み込む研究、RCの新構造システム、PC構造への免震・制振の利用なども行なっています。

1 梁部材の鉄筋重ね継手の性能検証実験



1

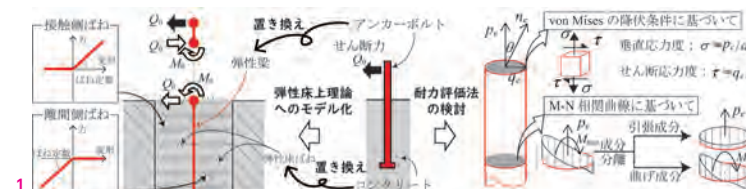
白井佑樹 | SHIRAI Yuki



構造コース
新機能型構法研究室 特別助教
[担当授業]
建築の力学及び演習、
鉄筋コンクリート構造の設計演習 他
[部屋番号] 12-15

建築物はコンクリートや鉄鋼などのさまざまな材料が協働して成り立ち、地震や風などに耐えています。また地震に耐える耐震性などだけでなく、その後も使用できる継続使用性など、新しい機能も要求されています。私は特に耐震性、継続使用性という観点から、協働の仕組み・現象をモデル化し理解・評価すること、またそこからより合理的な仕組みを開発することを構造実験や数値解析を通して研究しています。

1 コンクリートに埋め込まれたアンカーボルトのモデル化と耐力評価

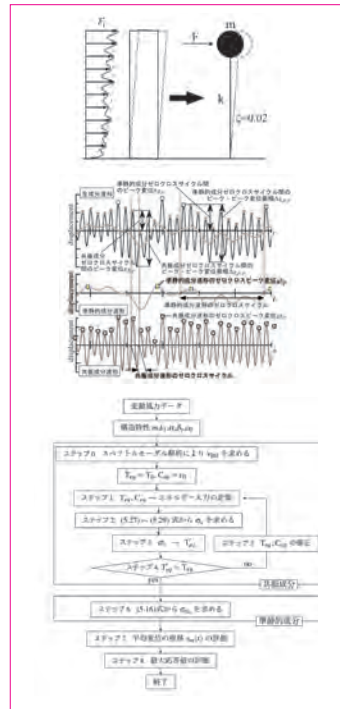


1

吉江慶祐 | YOSHIE Keisuke

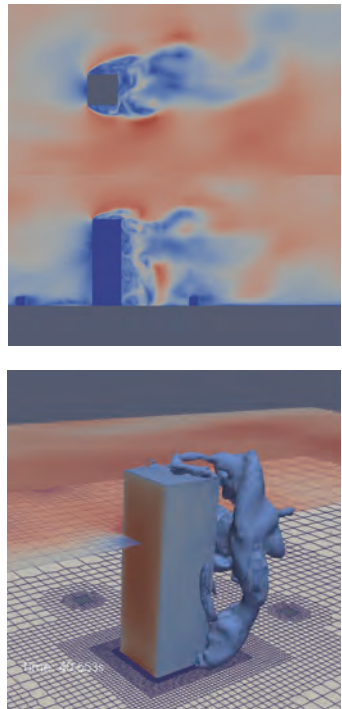
構造コース
耐震耐風構造研究室 教授
[担当授業]
建築の耐震解析及び演習、
建築の力学及び演習 他
[部屋番号]12-36

- 1 弾塑性構造物の確率統計的風応答予測法
- 2 建物周りの風の流れ



1

建築物を安全で使いやすく豊かな空間とするためには良質な建築材料や施工技術だけでなく、合理的で信頼できる構造設計の技術が必要です。
制振構造・免震構造の地震や暴風に対する動的なふるまいの分析を通じ、地震や風の性質と構造物の応答や損傷の関係を調べ、制振構造・免震構造の構造安全性の検証方法や設計法に関する研究を行います。



2

楊曉雨 | YANG Xiaoyu

構造コース
耐震耐風構造研究室 特別助教
[担当授業]
力と形、建築の力学及び演習、
建築構造・材料実験、
建築の耐震解析及び演習 他
[部屋番号]12-32

- 1 露出柱脚の实大実験

実大実験と構造解析の手法を組み合わせ、建築部材および建物全体の地震時や暴風時の応答を解明し、効率的かつ合理的な構造設計法を提案し、安全で安心できる建築物の設計の実現を目指します。



1

藤田正則 | FUJITA Masanori

構造コース
サステナブル構造研究室 教授
[担当授業]
鋼構造・地球環境建築、建築構造・
材料実験、鋼構造の設計演習、
骨組の力学II及び演習 他
[部屋番号]8-54

当研究室は、建築構造を骨組・部材・接合部・材料に分類して総合的に捉える構工法から、分析的に捉える実験と解析、設計までの全般にわたる研究を行っています。地球環境問題への鋼構造分野の対応として、座屈拘束ブレース、部材リユース、鋼木



2



1

質複合構造、機械式亀裂補修工法、腐食などの多岐の研究テーマを展開し、得られた研究成果の実際の建物への適用も実践しています。学外の研究機関や大学、企業などさまざまな分野との共同研究を取り入れています。

- 1 集合写真
- 2 サステナブル構造研究室の研究活動

中村慎 | NAKAMURA Makoto

構造コース
サステナブル構造研究室 特別助教
[担当授業]
建築構造・材料実験、建築学実験、
骨組の力学II及び演習 他
[部屋番号]12-22

サステナブル構造研究室では、藤田先生のご指導のもと、地球環境問題に主に鋼構造分野からの視点で取り組んでいます。私の中でも、本学が特許を保有する座屈拘束ブレースを中心に研究を行っています。地震等のエネルギーを安定して吸収する座屈拘束ブレースは、主に新築の鋼構造に用いられてきましたが、既存建物の改修に活用することも可能です。従来の枠組みに縛られない改修手法を構築し、既存建物の長寿命化の促進に寄与したいと考えています。



1



2

- 1 RC造に接合した座屈拘束ブレースつきの鉄骨フレーム
- 2 意匠と環境に配慮した座屈拘束ブレースを用いた改修案

朱牟田善治 | SHUMUTA Yoshiharu

構造コース
災害リスクマネジメント研究室 教授
[担当授業]
建築都市防災、地域防災概論、
力と形、基礎構造の設計と演習 他
[部屋番号]8-55

近年、地球温暖化などの影響もあり、災害は激甚化する傾向にあります。加えて、都市のエネルギー環境は激変、人もインフラ構造物も高齢化・高経年化が深刻な社会問題となっています。当研究室では、IoTなど先進的なデジタル技術やセンシング技術を応用しながら、ハードとソフトの両面から、都市の減災対策に寄与する構造物被害のメカニズムやその予測方法、さらには防災情報システムや災害リスクマネジメントなどの研究をしています。

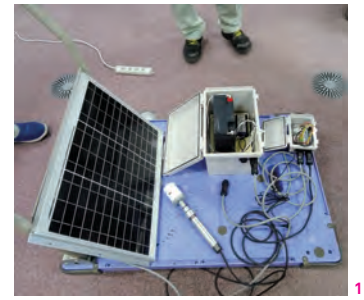
- 1 風速や温湿度等を計測する環境モニタリングセンサの試作
- 2 地震被害調査(2016年熊本地震)

落合努 | OCHIAI Tsutomu

構造コース
災害リスクマネジメント研究室 特別助教
[担当授業]
建築構造・材料実験、
建築学実験、力と形 他
[部屋番号]12-12

「鳥・虫・魚の目と見えないものを可視化し減災へ……」防災・減災のために多角的なアプローチでの研究を心がけています。たとえば、GIS(地理情報システム)やドローンによる空撮画像など鳥の視点、建物単体の震動や加速度センサの特性など虫の視点、構造ヘルスマモニタリングや災害からの復旧・復興過程など魚の視点、また目に見えない地面の下を推定・可視化する研究などです。これらを組み合わせ、安全・強靱かつ持続可能な都市へとつなげる研究を進めています。

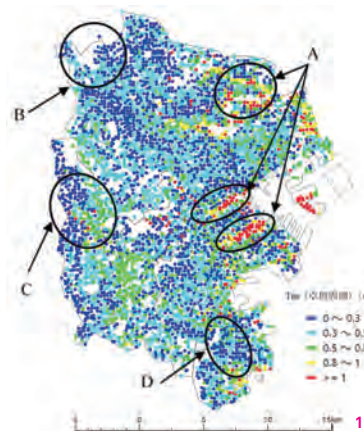
- 1 微動観測から推定した横浜市の揺れやすさマップ(落合他、日本地震工学会論文集、2019)
- 2 ドローンで撮影した水害被災地(令和2年7月豪雨、熊本県球磨川流域)



1



2



1



2

[環境コース]

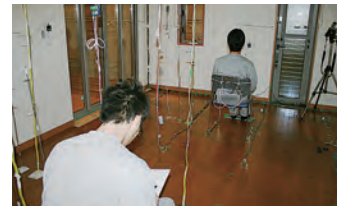
建築は常に新しい形態と空間の創造に挑戦し続けていますが、建築空間の質すなわち建築環境の向上にも努めなければなりません。同時に、環境・設備の分野において省エネルギー、資源循環、地球環境負荷削減などの社会的要求に答えていく必要があります。環境コースではこれらを目的とする技術の学修と研究を行います。



岩本 静男 | IWAMOTO Shizuo



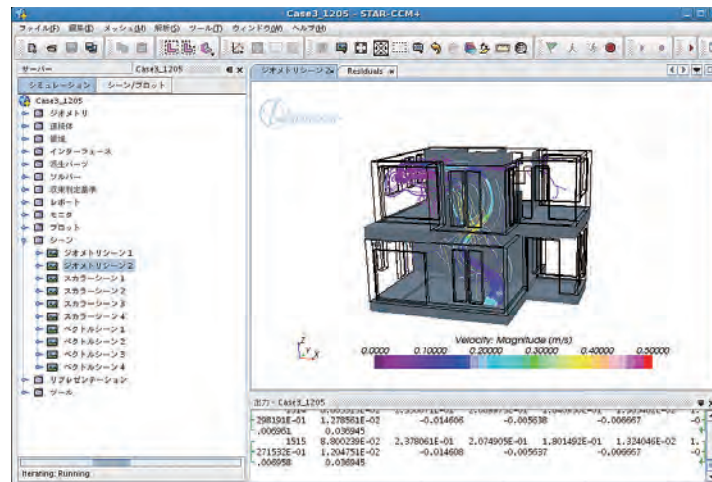
環境コース
建築環境工学研究室 教授
[担当授業]
建築環境概論、建築環境工学II
及び演習 他
[部屋番号]12-34



空調設備等によってつくられる「暑くも寒くもない」「汚れていない清浄な」室内環境と、消費されるエネルギーと発生する地球環境負荷をそれぞれ評価して、優れた室内環境を少ないエネルギーや地球環境負荷で実現する方をテーマとしています。給湯・照明設備に関する検討も行っており、ゼロエネルギー建築や住宅に関する研究も進めています。主な研究方法は数値計算で

すが、本学や他の施設で実験、実測も行っています。

- 1 A社実験住宅の吹き抜け空間での被験者実験の様子。室内に多くの気温センサーを吊り下げ、被験者には部位別の温冷感や快適感を回答してもらった
- 2 被験者実験を行った実験住宅を対象に、CFD(数値流体力学)ソフトウェアを用いて気流解析を行った事例。吹き抜け空間の空気が階段を経由して移動する様子がわかる



藤本 遼 | FUJIMOTO Ryo

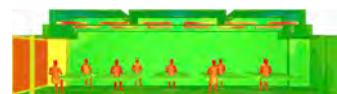
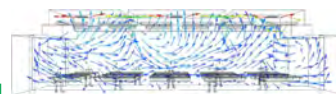


環境コース
建築環境工学研究室 特別助手
[担当授業]
建築環境論I・II、
建築実験、給排水衛生設備 他
[部屋番号]12-23

本研究室は、建築環境工学における空気・水・熱を対象に研究しています。

私はこの中でも主に空気と熱を扱っており、最近「大規模講義室における人体の温冷感指標の評価」について研究しています。本研究は、講義室の温熱環境をCFD解析(数値流体解析)によって再現し、出力されるデータを元に人体の温冷感や快適感について評価、異なる空調方式における温冷感や快適感の違いを比較しています。

- 1 大規模講義室“単位モデル”における流れ場
- 2 大規模講義室“単位モデル”における温度場



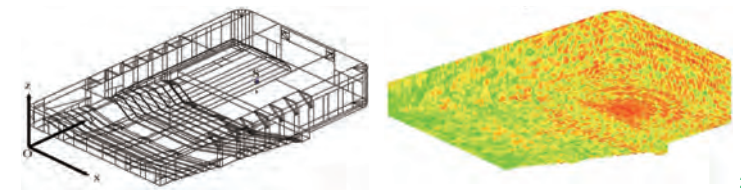
安田 洋介 | YASUDA Yosuke



環境コース
音・光環境研究室 教授
[担当授業]
建築環境概論、建築環境工学I
及び演習、建築環境工学実験、
空調設備設計演習 他
[部屋番号]6-407

日々の生活を営む建築において、「空間の質」やそれがもたらす「QOL(Quality of Life)」は重要です。これらに密接に関わるものとして、建築環境工学の中でも音環境・光環境、特に前者に関して研究しています。具体的には、建築を建てる前に音環境を予測するための数値解析手法の開発、集合住宅における騒音問題の代表である床衝撃音を低減するための遮音構造の開発、さまざまな騒音伝搬対策などが挙げられます。建築において音に関する不満が挙がることは少なくありません。ぜひ音に意識的になってほしいと思います。

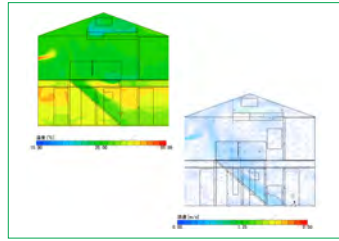
- 1 床衝撃音低減のための遮音二重床
- 2 小ホールの数値解析結果。
音の波動性まで考慮した高精度なものの



芹川真緒 | SERIKAWA Mao



環境コース
建築環境・設備研究室 准教授
[担当授業]
建築の設備、空調設備I-II、
建築環境工学実験、
空調設備設計演習 他
[部屋番号] 8-56



気候変動を含むさまざまな課題の解決に向けて、内部で過ごす人にとって快適で健康的な環境を実現しつつ、地球環境への負荷を抑えた建築の普及が求められています。高い環境性能を有する建築が適切に評価されれば、その普及にもつながると考えられます。建物の性能向上がどの程度の快適

性の向上につながるか、効率の高い設備への更新によりどの程度のエネルギーや光熱費の削減が達成されるかを定量的に評価して、表現する方法を研究しています。

- 1 CFD(数値流体解析)による住宅内の温熱環境や空気の流れの把握
- 2 SDGsと関連つけた住宅性能の評価



吉浦温雅 | YOSHIURA Atsumasa



環境コース
建築環境・設備研究室 特別助教
[担当授業]
建築環境工学実験、
環境システム計画演習 他
[部屋番号] 8-57



自然エネルギーを利用する建築的なシステムをつくるための研究を主に予測計算で行っています。研究内容の例としては、太陽の熱を利用した、室内の空気を健康的に保つ、また熱気を排出する換気システムを考えています。ビルの壁面で蒸発冷却を利用した、夏場の都市を過ごしやすくする工夫を試しています。近年、歴史的に価値のある民家が活用されていますので、そこで生活する方々に、冬を温かく過ごしてもらう技術を提案しています。

- 1 住宅の換気性能を測定している様子
- 2 調査させていただいた農家が活用された福祉施設



Design

【デザインコース】

建築はさまざまな営みを包み込む器であり、その創造には実に多くのことを学ばなければなりません。デザインコースでは、製図科目を柱とし、建築設計の基礎知識、デザイン理論や手法、日本や西洋の建築史など幅広く学びます。これらを有機的につなげ、建築に関わる「デザイン」を考えていくことを目的としています。



松隈洋 | MATSUKUMA Hiroshi



デザインコース
建築史研究室 教授
[担当授業]
建築グラフィックス、近現代建築史A
[部屋番号] 8-510



20世紀に世界的スケールで展開されたモダニズム建築(Modern architecture)は、私たちの身近な生活環境を形作ってきた直接のルーツです。その先駆者の1人ル・コルビュジエ(1887-1965年)は、日本にも大きな影響を与えました。私は、彼のアトリエに学んだ前川國男(1905-86年)の事務所に勤

めた経験から、モダニズム建築の歴史と思想、設計方法論を研究しています。よりよい生活環境を築くために何が大切なのか、みなさんとともに考えたいと思います。

- 1 前川國男、神奈川県立音楽堂(1954年)
- 2 ル・コルビュジエ、チャンドイガル合同庁舎(1958年)



姜明采 | KANG Myungchae



デザインコース
建築史研究室 特別助教
[担当授業]
建築グラフィックス、設計製図I-II、
建築史フィールドワーク 他
[部屋番号] 8-59



- 1 研究成果をもとに実施した、東京都復興記念館秋季特別展の展示解説(2016年)

すべての建築には計画の段階から現在に至るまで、その場で時を過ごしていた人々の物語が描かれています。本研究室では日本の近代建築と近代住宅を中心にその物語を読み解き、これからの建築を考える重要な

ヒントを集めています。私は日本とともに韓国の近代建築についてさまざまな角度から検討し、社会の変化とともに発展してきた建築文化の変容過程を再考する研究を行います。

曾我部昌史 | SOGABE Masashi

デザインコース
都市デザイン研究室 教授
[担当授業]
設計製図II、建築デザインIII、
都市デザイン論 他
[部屋番号] 8-61



社会と都市の現実を相手に、建築デザインはどう関わられるのか。その可能性の追求を目指しています。可能な限り実践的に、そして常識にとらわれない独自の視点を獲得したいと考えています。学生たちには、このよう

な探求に集中力をもち積極的に関わることを期待しています。この研究室は、何らかの知見を受け取るための場ではなく、自ら探求するための場であるということです。建築の新しい可能性と一緒に探求していきましょう。



- 1 古民家改修
(徳島県美波町2019。学生たちと実測調査から内装を含む全体の設計までを行った)
- 2 被災地支援
(熊本県宇城市2016。熊本地震の仮設住宅団地でみんなの家(集会所)の椅子を製作した)

吉岡寛之 | YOSHIOKA Hiroyuki

デザインコース
都市デザイン研究室 特別助教
[担当授業]
建築デザインI・III 他
[部屋番号] 8-61

さまざまな地域で、小さな公共施設、名産を紹介する店舗、古民家改修による街並み保全など、実践的な建築設計とまちづくりに取

り組んでいます。考えるプロセスにおいて、今日的な人のつながりに対して、建築の役割を模索することは重要であり、地域の芸術文化施設を対象に、コミュニティの視点から研究も進めています。建築設計、まちづくりを同時に考えることから生まれる、建築と地域を横断的にとらえる新たなデザインを追求しています。

- 1 地域の名産を紹介する移築可能な木造仮設店舗を設計



中井邦夫 | NAKAI Kunio

デザインコース
建築計画研究室 教授
[担当授業]
設計製図II、建築デザインI、
建築の計画とデザイン 他
[部屋番号] 8-67A



楽しい空間、落ち着く空間、ときには感動する空間など、普段私たちは、言葉や身振りと同じように、建築からいろいろなメッセージを受け取っています。より豊かな建築や都市の実現のためには、こうした建築のメッセージを成り立たせる空間の仕組みを理解

し、その可能性を考えていくことが重要です。私の研究は、調査対象についての体系的な理解や実践的な設計活動を通して、建築空間の仕組みについて考察し、その可能性を探求することを目的としています。



- 1 2009年、台東区浅草文化観光センターコンペ入選案
- 2 2013年、「富久町の家」

鈴木成也 | SUZUKI Naruya

デザインコース
建築計画研究室 特別助手
[担当授業]
建築デザインI・II、設計製図I 他
[部屋番号] 8-67

私は都市の中心市街地に建っている「都市建築」についての研究をしています。都市に

は多種多様な建物が存在しています。それらはその持ち主の個人的な事情もさることながら、各時代の経済状況、法律、構法、または流行など、さまざまな社会的な影響を受けて建てられ、よく観察してみると何か似たような形式が見えてきます。一見雑多に見える都市建築をより具体的に理解し、より豊かな都市や建築の在り方を探していくことを目的としています。



1 横浜市中区福富町

六角美瑠 | ROKKAKU Miru

デザインコース
建築デザイン研究室 教授
[担当授業]
建築設計論、設計製図I、
建築デザインII 他
[部屋番号] 8-68A



私たちをとりまく環境と対話し、設計によって魅力的な空間を視覚的世界として構築することが建築・空間デザインのおもしろさだと思います。実践的に考え、試行錯誤し、表現していく経験の中に建築デザインの学びの本質があると考えます。研究室を「共に学ぶ場」と考え、①作品から学ぶ、②職人から学ぶ、③地域から学ぶ、この3つを軸に設計手法研究から町や施設と関わる具体的なプロジェクトまで幅広い活動を興し、創造力と個性を磨く環境にしていきたいと思っています。

- 1 商業ビル「SeaForce.bldg」
- 2 住宅「ORU 折織居」



内田青蔵 | UCHIDA Seizo

デザインコース
特任教授
[担当授業]
近現代建築史B、横浜建築、
建築史フィールドワーク 他
[部屋番号] 8-63

1 上海街歩きの様子



古い時代に建てられた歴史的建築物を見て、「美しい」とか「なんか魅かれる」と感じた建築は、すべて学びの対象となります。建築年代や設計者のこと、あるいは、意匠や隠れた技術を解き明かすことにより、その建築の魅力の理由に近づくことができます。私の専門は、近代日本建築史。West meets Eastの時代、日本では何が起こり、その後の建築と社会はどのように変化して来たのか？そして、これからの建築と社会はどう進むのか？近代の建築の分析を通して、考え続けています。

Habitation Design

[住生活創造コース]

生活とその器である住空間を見つめ直し、より豊かなものにするを目的とし、人間の生活の歴史と住空間のデザインについて学びます。国内外の生活環境についてのフィールドワークやデザイン演習を通して、ライフスタイルの可能性を広げる住空間をデザインする知識と技能を修得し、社会問題を踏まえつつ再構築する力を養います。



鈴木信弘 | SUZUKI Nobuhiro



住生活創造コース
住宅デザイン研究室 教授
[担当授業]
設計製図Ⅰ、
生活空間デザイン演習Ⅱ、
住宅設計論、造形デザイン 他
[部屋番号] 9-63

建築の設計は「住宅に始まり、住宅に終わる」といいます。住宅は身近な暮らしの場でありながら、人間としての生体的環境を快適にするだけでなく、社会とのつながりを模索する場であるという、複雑・多様な要件を備える興味の尽きないテーマです。住宅デザイン研究室では、リアルな住宅の設計とモノづくりの実務を通して「住宅」の諸問題を考え、提案する活動から地域環境と社会圏を良い方向に進めていきます。



1



2

1 音響と空間の強度を考慮して設計した家(横浜市E邸)
2 暮らし方のヒアリングを通じてフィールドバック(横浜市O邸)

菊井悠央 | KIKUI Hisahiro



住生活創造コース
住宅デザイン研究室 特別助手
[担当授業]
設計製図Ⅱ、住生活創造概論、
生活空間デザイン演習 他
[部屋番号] 9-63

その土地の環境と現代に生きる人間から見出せる暮らしの豊かさをデザインすることを目的とし、家具から住宅、建築の設計を実践しています。

人間の暮らす環境は、みんなが日常的に触れるものであり、風土による光・熱・風・湿気などの自然の要素、素材、居住文化の歴史・様式・構法・技術、法規制など、さまざまな背景からできています。

以上のような多様な観点から学びを得ながら、より豊かな住環境のデザインを行います。

須崎文代 | SUZAKI Fumiyo



住生活創造コース
生活デザイン史研究室 准教授
[担当授業]
居住空間史、生活空間デザイン演習Ⅰ、
生活文化フィールドワーク、
住生活創造概論、建築グラフィックス 他
[部屋番号] 9-64



2

私たちの生活空間は、衛生思想や技術革新、芸術運動などの影響を受けて近代以降に大きく変化してきました。数々のデザインの試行錯誤から紡ぎ出された知見は、人間生活や地球環境の未来をデザインするための大

きなヒントを与えてくれます。このような観点から生活空間デザイン史研究室では、(身体)・(技術)・(芸術)・(共同性)という4つの切り口から、住宅(台所、風呂、トイレ等)や生活文化の歴史研究に取り組んでいます。



1

1 フランクフルト・キッチン
(マイハウス@レーマーシュタット)
2 田園都市レッツワースと共同家事

印牧岳彦 | KANEMAKI Takahiko



住生活創造コース
生活デザイン史研究室 特別助教
[担当授業]
造形デザイン、設計製図Ⅰ、
住生活創造概論 他
[部屋番号] 9-64

現在の私たちが生活している世界をつくり上げてきた過去の建築物や、それらを構想した人々の考えについて、残された史料の分析にもとづいて研究を行なっています。特に研究対象としているのは、現代の建築のひとつの起点といえる20世紀初頭の近代建築、つまり鉄・ガラス・コンクリートといった工業化された建築材料の登場や、大都市の出現による住宅問題といった社会的な課題を背景として現れてきた新たな建築と、その成立に貢献した人々の思想です。

1 オーギュスト・ベル「フランクリン街のアパートメント」(1903)、最初期の鉄筋コンクリート造建築
2 アドルフ・ロース「トリスタン・ツァラ邸」(1926)、装飾を排除した近代建築の一例



1



2

立花美緒 | TACHIBANA Mio



住生活創造コース
居住環境デザイン研究室 准教授
[担当授業]
生活環境論、生活空間デザイン演習Ⅲ、
生活文化フィールドワーク、
住生活創造概論、設計製図Ⅱ他
[部屋番号] 9-65

コロナ禍で、リモートワークやワーケーションといったように、住まいと仕事の関係や、暮らしの価値観は大きく変容しています。このような社会的背景と居住環境の関係を、現在と過去から学び、未来の豊かな暮らしを支える住宅を、実践的に提案する研究室です。近現代の住宅と集合住宅、国内外の集落、生産と消費を再縫合する暮らし等について、文献とフィールドワークでリサーチし、地域社会に貢献する建築とインテリアをデザインします。

1 ギリシャ・サントリーニ二島でのフィールドワーク



1

Town
Regeneration

[まち再生コース]

人々が暮らしやすい社会にするためには、どのような空間であるべきか。社会や文化、法律や制度、生活などさまざまな要素から構成される「まち」をマクロとミクロの両方の視点から捉え、今後変わりゆく「まち」をイメージします。その上で、既成概念にとらわれない建築や都市のあり方を提案するための知識と技術を修得します。



山家京子 | YAMAGA Kyoko



まち再生コース
都市計画研究室 教授
[担当授業]
設計製図Ⅰ、まち再生概論、
都市計画、まち再生演習Ⅱ他
[部屋番号] 8-66A



1

都市は社会、制度、文化、生活などを反映して形づくられています。都市空間をさまざまな視点から調査・分析し、社会課題に対応した都市と建築のあり方について提案を行います。調査研究では、横浜を中心とした

住宅地や商店街、国内外の都市再生事例などをフィールドとしています。また、これらの検討を実践する場として、住民参加型ワークショップの運営などを通して、まちづくりの現場にも積極的に関わっていきます。



2

1 源兵衛川の多自然型川づくり
2 まちづくり: 十日市場
たからものマップ

柏原沙織 | KASHIHARA Saori



まち再生コース
都市計画研究室 特別助教
[担当授業]
建築CAD演習Ⅱ、まち再生演習Ⅰ・Ⅱ、
まち再生概論、まち再生輪講Ⅰ・Ⅱ他
[部屋番号] 9-61



1

アジアの歴史地区は、古い建物や活気ある商業・生活が独特の街並みを形成している一方、観光化や富裕化等の変化にさらされています。こうしたまちの魅力を継承するためには単なる開発の抑制ではなく、そのまちならではの変化を見出し、建物や活動の両面から変化を誘導する方法を考える必要があります。私はベトナム・ハノイを中心に、観察・文献調査や商業者・住民の方へのヒアリング等を通して街並みの変容実態を把握し、適切な変化マネジメントの手法を提案することを目指しています。



2

1 約1000年の歴史を持つ商住混合地区・ハノイ旧市街
2 店主の方へのアンケート調査

野村和宣 | NOMURA Kazunori



まち再生コース
建築保存活用研究室 教授
[担当授業]
設計製図II、建築保存活用計画論、
まち再生演習III、まち再生概論、
まち再生輪講I・II他
[部屋番号] 9-62



歴史を積み重ねてきた街には、長く生き続けてきた建築があります。そのような建築には、新築では決して創ることのできない唯一無二の価値があります。その価値を明らかにして次の時代に受け継ぎながら、機能面では時代の要求に合わせて生まれ変わらせていく、そんなまちづくりを研究し実践して

います。みなさんひとりひとりの見る眼や思いを大切に街や建築の多様な価値を見つけ出し、それを継承するための方法について、実践的に学びます。

- 1 日本工業倶楽部会館の保存活用を行った再開発
- 2 三菱一号館・明治期煉瓦造の復元を行った再開発



塩脇祥 | SHIOWAKI Sho



まち再生コース
建築保存活用研究室 特別助手
[担当授業]
建築グラフィックス、
まち再生概論、まち再生演習III・IV、
まち再生輪講I・II他
[部屋番号] 9-61

- 1 遊休不動産イベント利用 水谷マンション1F
[展示*記録*解体]
- 2 徳島県牟岐町 モラスコむぎ拠点創出事業・
実証実験イベント



高橋寿太郎 | TAKAHASHI Jutaro



まち再生コース
不動産デザイン研究室 教授
[担当授業]
造形デザイン、
デザイン系不動産学基礎、
まち再生演習IV、
ローカル不動産マネジメント論、
まち再生概論、まち再生輪講I・II他
[部屋番号] 9-62



- 1 イマケンビル(設計監理:ヤマサキアトリエ 山崎裕史)
- 2 出口商店(設計監理:kurosawa kawara-ten 黒澤健一)

私たちは、建築領域にありながら、不動産学的アプローチにより、建築や都市の諸課題を実証的に研究します。これは全国的にも新しい取り組みです。今後ますます重要度を増す建物再生のリノベーション、増加する空き家の活用対策、地域コミュニティを扱うまちづくり。これらを考えるためには、不動産学が不可欠な時代が来ています。机上で学ぶ建築と不動産の知識をインプットし、実際にまちに出てアウトプットする実践を行いましょ。

上野正也 | UENO Masaya



まち再生コース
まちづくり研究室 准教授
[担当授業]
建築グラフィックス、横浜建築、
まちづくり論、まち再生演習I、
都市空間マネジメント論、
まち再生概論、まち再生輪講I・II他
[部屋番号] 8-46-1



心地よいと感じるまちには、さまざまな工夫や仕掛けが施されています。そして、まちの特徴や魅力を「強み」として引き出す、多様な手法によって、雰囲気や空気感といったものが醸成されています。まちづくり研究室では、これら多様な手法・アプローチについて学ぶとともに、まちの未来を構想する力を身につけます。また、具体的なまちづくり活動に参画し、理論と実践を循環させることで、よりよい地域社会の可能性を探ります。

- 1 八丁囃: 空地の活用に向けた実践的取組み
「チョークアートイベント」
- 2 かいだん広場: 横浜市中区黄金町地区における
まちづくり(撮影:柳本順也)

建築学部特任教授

スタンリー・ラッセル | Stanley RUSSELL



[担当授業]
アメリカと日本の住宅設計、
建築デザインII他
[部屋番号] 9-63

- 1 クラシックカー・ショールームのロビー
(フロリダ州タンパ)
- 2 自らが設計および施工を行なった芸術家の山荘
(兵庫県淡路島)

建築は数知れない世界の物事に影響されています。その多面的な世界を見極め体験することは、私の人生における情熱であり、デザインや指導をするうえでも大きく影響しています。これまで、建築家、職人、教師という異なった側面から建築と向き合い、経験を積んできました。設計や指導、研究をするうえで、これら3つの視点は対話し影響し合い、よい相乗効果を生み出しています。デザインに関して最も基本的で重要なことは、創造の過程にあると考えています。デザインの経緯を理解し可能性を広げる方法を探ることが、今の指導と研究の中心となっています。



建築学部スタッフ

佐藤宏貴 | SATOU Hiroki



教務技術職員
[担当授業]
建築構造・材料実験、
建築学実験
[部屋番号] 12-13

建築学部スタッフ

河内由希 | KAWACHI Yuki



教務技術職員
[担当授業]
工房ものづくり演習
[部屋番号] 31-101-1

Adjunct Lecturer

非常勤講師

- 担当科目
[本務]
(五十音順)

アリソン理恵 | ALLISON Rie

- まち再生演習Ⅳ
[一級建築士事務所 ara]

石川初 | ISHIKAWA Hajime

- 都市フィールド学
[慶應義塾大学]

石原哲哉 | ISHIHARA Tetsuya

- 基礎構造の設計及び演習
[免震ハウス]

泉山聖威 | IZUMIYAMA Rui

- パブリックスペース論
[日本大学]

伊東龍一 | ITO Ryuichi

- 日本建築史
[元熊本大学教授]

井上祐一 | INOUE Yuichi

- 建築グラフィックス、造形デザイン
[一級建築士事務所アーキラボ]

井原佳代 | IHARA Kayo

- 設計製図Ⅰ,Ⅱ
[ihrmk一級建築士事務所]

上野耕一 | UENO Koichi

- 建築環境工学実験、
建築学実験、電気設備
[日本設計]

エドウィン・フォーク | Edwin FOLK

- 建築技術英語Ⅰ,Ⅱ
[The Waku+Folk Partnership]

大友敬三 | OTOMO Keizo

- 建築技術英語Ⅰ,Ⅱ
[電力中央研究所]

大村卓 | OMURA Taku

- 工房ものづくり演習
[oodesign]

岡田雅人 | OKADA Masato

- 設計製図Ⅰ
[岡田雅人建築設計事務所]

岡部友彦 | OKABE Tomohiko

- まち再生演習Ⅱ
[コトラボ]

岡村晶義 | OKAMURA Akiyoshi

- 建築デザインⅢ
[アトリエ鯨]

奥山博康 | OKUYAMA Hiroyasu

- 建築実務実習Ⅲ、Ⅳ
[元神奈川大学教授]

小此木佑介 | OKONOGI Yusuke

- 建築CAD演習Ⅰ,Ⅱ
[async]

加藤孝明 | KATO Takaaki

- 建築都市防災Ⅱ
[東京大学]

兼弘彰 | KANEHIRO Akira

- まち再生演習Ⅲ
[ユニー・エス・シー]

川辺直哉 | KAWABE Naoya

- 建築デザインⅠ
[川辺直哉建築設計事務所]

木島千嘉 | KIJIMA chika

- 建築デザインⅡ
[木島千嘉建築設計事務所]

木村絵理子 | KIMURA Eriko

- 現代アート論
[弘前れんが倉庫美術館]

見学洋介 | KENGAKE Yusuke

- 建築法規
[日本ERI]

佐々木龍郎 | SASAKI Tatsuro

- 建築デザインⅢ
[佐々木設計事務所]

鈴木大輔 | SUZUKI Daisuke

- 工房ものづくり演習
[drawers]

鈴木丈晴 | SUZUKI Takeharu

- 建築デザインⅡ
[鈴木丈晴アトリエ一級建築士事務所]

鈴木伸治 | SUZUKI Nobuharu

- まちなみ保存再生論
[横浜市立大学]

平真知子 | TAIRA Machiko

- 生活空間デザイン演習Ⅱ
[平真知子一級建築士事務所]

武田清明 | TAKEDA Kiyooki

- 生活空間デザイン演習Ⅰ
[武田清明建築設計事務所]

武輪敬心 | TAKEWA Keico

- 家族・コミュニティ論
[豊橋技術科学大学]

田中厚子 | TANAKA Atsuko

- 建築批評特論Ⅰ(大学院)
[アクセス住環境研究所]

辻村壮平 | TSUJIMURA Sohei

- 環境心理学、
建築設備特論Ⅰ(大学院)
[茨城大学]

徳田浩 | TOKUDA Hiroshi

- 建築の生産、
建築生産工業化特論(大学院)
[元清水建設]

徳弘洋子 | TOKUHIRO Yoko

- 給排水衛生設備設計演習、
空気調和設備設計演習
[徳弘建築設計事務所]

中村謙太郎 | NAKAMURA Kentaro

- 建築・生活メディア論
[建築編集集中村謙太郎事務所]

花里利一 | HANAZATO Toshikazu

- 木質構造、木質構造特論(大学院)
[元三重大学]

濱口光 | HAMAGUCHI Hikaru

- 設計製図Ⅱ
[ミタリ設計一級建築士事務所]

人見泰義 | HITOMI Yasuyoshi

- 構造デザイン特論(大学院)
[日本設計]

藤原ちから | FUJIWARA Chikara

- まち再生演習Ⅰ
[orangcosong]

古谷洋平 | FURUYA Yohei

- 設計製図Ⅰ
[アトリエドゥウェル 一級建築士事務所]

増田泰良 | MASUDA Taira

- 建築物理数学
[東京工業大学附属科学技術高等学校]

松本章 | MATSUMOTO Akira

- 近代デザイン史
[ゼフ・デザイン]

丸山美紀 | MARUYAMA Miki

- 工房ものづくり演習
[マテデザイン]

森口英樹 | MORIGUCHI Hideki

- 鉄筋コンクリート構造の設計演習
[ビューローペリタスジャパン]

守田正志 | MORITA Masashi

- 西洋建築史
[横浜国立大学]

森山ちはる | MORIYAMA Chiharu

- 建築デザインⅠ
[サイドバイサイド一級建築士事務所]

山崎誠子 | YAMAZAKI Masako

- 生活緑地デザイン
[日本大学]

山下貴成 | YAMASHITA Takanari

- 設計製図Ⅱ
[山下貴成建築設計事務所]

山本基揮 | YAMAMOTO Motoki

- 生活空間デザイン演習Ⅲ
[山本基揮建築設計]

渡瀬正記 | WATASE Masanori

- 建築デザインⅢ
[一級建築士事務所設計室]

渡邊謙一郎 | WATANABE Kenichiro

- インテリア・家具デザイン
[スタンダードトレード]

渡邊美奈子 | WATANABE Minako

- 建築設備のマネジメント
[新日本空調]

Facilities

施設紹介

神奈川大学には、専門的な教育のための充実した設備や学生生活を豊かにする環境が整っています。



8号館 | 製図室

主に設計演習に使用する大製図室。全学生が授業時間外も使用できる大型の製図機と製図板を常設。プロジェクターも設置され各種発表会や講評会も行えます。



31号館 | 建築ものづくり工房

各種工作機械が設置された工房。設計課題の模型や家具、架構モデルなど、自ら実際の建築材料を加工し、ものづくりを体験できる創作の場。

[キャンパス配置図]

* 図中の数字は○号館を表します。



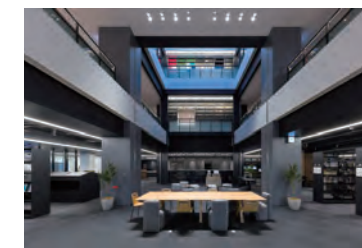
12号館 | 建築構造実験室

建築構造実験室は、1967年に竣工した大型構造物用動的試験装置を保有する実験室です。実験に精通したスタッフと教員、学生、外部企業の関係者が協同して実験・研究を行っており、その最先端技術が実物件へ適用されています。



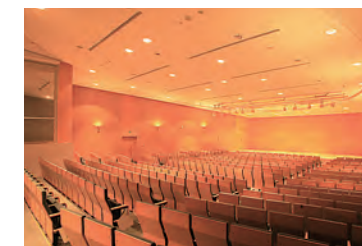
12号館 | 無響室

室内の壁、天井、床の全面に楔形の吸音材を取り付け、どこからも音が反射しないようにした実験室。さまざまな音響物理測定や音響心理実験に用いられます。



15号館 | 図書館

学部の専門分野はもとより、一般教養としての哲学・歴史・芸術・文学など、総合大学にふさわしい多彩な蔵書構成で、約122万点を所蔵。電子ジャーナルや視聴覚資料も充実しています。



16号館 | セレストホール

1996年9月に竣工。世界的な建築家の横文彦氏により設計され、天球や夜空の星を連想させるデザイン。講演会や会議に利用されることを主として、音声の明瞭性を重視した音響設計がなされています。



10号館 | 学生食堂

座席数800席を誇るキャンパス最大規模の学食。2階「カルフル」では栄養バランスを考えた定食類や麺類、3階「シフォン」では軽食やスイーツなど。メニューの種類の豊富さには定評があります。

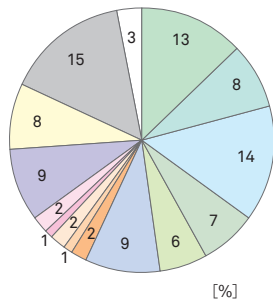
Career Choice by Graduates

[就職] OB/OGインタビュー

神奈川大学建築学科(2022年4月建築学部開設)の卒業生および大学院建築学専攻の修了生は、公務員、建築関連会社、設計事務所など幅広い分野で活躍しています。また、学んだことを生かして建築関連以外の方向に進む人もいますし、大学院への進学も選択肢のひとつです。建築学部で学ぶことで、建築のプロフェッショナルとなるためのさまざまな資格の受験資格を得ることもできます。卒業生がどのような道へ進んでいるのか、建築に携わる仕事の魅力とはなにかなど、これまでの業種別就職者のデータと卒業生へのインタビューで紹介します。みなさんが歩む先に広がる将来像を思い描いてみてください。

分野別就職者数[学部/大学院]

学部	[人]
建設業:総合[土木・建築]	15
建設業:建築・建設	9
建設業:設備工事・プラント・内装	16
建設業:住宅	8
建設業:コンサルタント・設計事務所	7
不動産業	10
製造業	2
商社	1
流通業	2
輸送	1
情報通信業	3
サービス業	11
公務員	9
進学	18
その他	4
合計	116

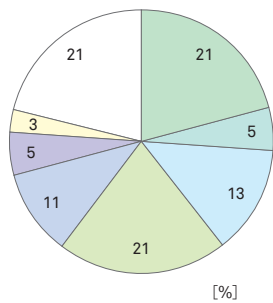


資格の取得

1 学部卒業後に所定の実務経験をj経ることで受験資格が得られるもの	一級建築士*
	建築施工管理技師(1,2級)
	建築設備士
	建築設備検査資格者
	技術士
2 受験資格が得られ、一部の試験が免除されるもの	弁理士
	不動産鑑定士
3 受験資格が得られるもの	技術士補
	社会保険労務士
	二級建築士
	木造建築士
	衛生工学衛生管理者
	労働衛生コンサルタント
	労働安全コンサルタント
	社会教育主事
4 必要な授業を履修することで得られるもの	学芸員
	日本語教員
	高等学校教諭 一種免許状(工業)

* — 大学院で所定の科目を履修することで、最大2年間の実務経験として認められます。

大学院	[人]
建設業:総合[土木・建築]	8
建設業:建築・建設	2
建設業:設備工事・プラント・内装	5
建設業:コンサルタント・設計事務所	8
不動産業	4
サービス業	2
公務[地方]	1
その他	8
合計	38



[2022年9月+2023年3月卒業・修了生]

[主な就職先]

大林組
鹿島建設
清水建設
竹中工務店
大成建設
東急建設
西松建設
五洋建設
北野建設
奥村建設
安藤・間
大和ハウス工業
アーネストワン
アキュラホーム
一条工務店
新日本空調
ミサワリフォーム
日本総合住生活
大成温調
大東建託
長谷工コーポレーション
東洋測量設計
飯島建築事務所
日比野設計
山田建設
大和地所レジデンス
オープンハウス・ディベロップメント
世紀東急工業
三共フロンティア
野村不動産パートナーズ
NTTデータMSE
新都市ライフホールディングス
北海道銀行
東京鉄鋼
日本郵便
小田原市役所

構造コース | 小串聖子 | OGUSHI Seiko

東急建設株式会社
耐震耐風構造研究室
2009年度卒業/神奈川県立横浜翠嵐高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

1年目から現場に配属され、建築現場の施工管理をしています。施工管理とは、安全・品質・工程をすべて守り、滞りなく工事を進めるために、諸官庁提出書類を作成したり、施工

設計、協力会社と調整を行ったりする仕事です。これまでに携わった現場は、マンション建築が7現場、商業施設が3現場です。6年目の夏から、渋谷駅再開発事業の現場で商業ビル、ホールなどの地上施設と地下の鉄道を結ぶ「アーバン・コア」の施工を担当しました。現在は、10番目の現場で毎日楽しく仕事をしています。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

役に立っている授業は「設計製図」です。スケッチや図面、写真などを使い、自分の考えを表現する基礎を学ぶことができました。仕事では、常に相手へ、考えや案を分かりやすく伝えることが大切になるため、どの分野に進んでも役に立つと思います。最も印象に残っている経験は、4年次の卒業研究です。テーマは「CFT構造」について、1年間実験棟で教授や仲間と共に計画から実行、論文作成までできたことは、とても力になりました。

今後の目標を教えてください。

みなさまに喜んでいただける歴史に残る建造物の建設に、これからも携わってまいります。

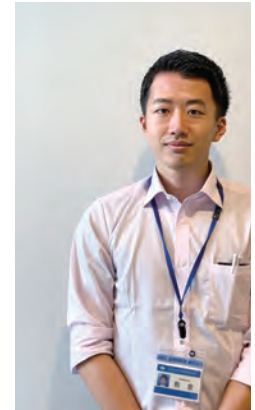
高校生へのメッセージ

神奈川大学は総合大学であり、多くの学部、学科があります。興味のある講義は学部、学科を超えて受講することができます。大学は学業はもちろん、いろいろな友人と出会う場所です。ぜひ神奈川大学で有意義な4年間を過ごしてください。



構造コース | 熊倉達季 | KUMAKURA Tatsuki

横浜市役所
新機能型構法研究室
2018年度卒業/新潟県立新発田南高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

特定行政庁で建築確認審査、検査の構造に関する業務を行っています。建築確認審査では建築確認申請を受けた建築物の図書について建築基準法に適合しているか、計算書の入力に間違いがないかなどを審査します。検査については建築基準法第7条の3に該当する検査を行い、建築物が建築基準法に適法な状態で建築されているかの検査を行います。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

建築構造に関する授業が最も役に立っています。建築構造に関する業務を行なっているため、許容応力度計算、部材の材料強度、名称など基本となる知識があることが業務知識習得の土台となっていると感じています。

今後の目標を教えてください。

職種上、幅広い建築知識が問われる仕事であるため、一級建築士の資格取得が今後の目標です。

高校生へのメッセージ

建築知識が必要な仕事は、みなさんが考えているより幅広く、奥が深いです。将来どのような仕事に就くか決まっていなくても、大学で学んだ知識はいろいろなかたちで役に立つと思います。建築は人が生活する上で欠かせないものです。神奈川大学で建築を学んでよりよい社会を創っていきましょう！



清水建設株式会社
音・光環境研究室
2013年度大学院修了/私立藤嶺学園藤沢高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

建設現場における設備工事(衛生・空調・電気など)の施工管理を行っています。設計図には、建物の完成した姿は描かれていますが、どのように施工するかについては描かれていません。

施工者は、限られたコスト・工程で品質・安全を保ちつつ、環境に配慮して施工を行うためにどんな方法・手順がよいのかを考えなくてはなりません。さらに、議論を重ねて最終決定した仕様を基に、現場でその通りに施工されているか管理し、品質の高い建物を施主に引き渡すことが私の仕事です。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

ある建物に対して自身で実際に設備設計を行い、施工図(実際に施工する際の基になる物の納まりと踏まえた図面)まで作成するという授業です。さらには、エアコンの室内機と室外機を冷媒管でつなぎ冷媒ガスを送り込み、エアコンの試運転まで行うという授業もありました。これらは本当に実務に直結するものでした。設備設計をここまでやるのは神奈川大学独自のことで、非常にためになりました。

今後の目標を教えてください。

海外勤務を経験し、人間力を上げたいと思っています。そしてゆくゆくは、大勢の人に影響を与える建物の建設に携わりたいと思っています。

高校生へのメッセージ

神奈川大学には、実務に近い独自の授業や充実した実験施設、大きな図書館があります。また熱心に教えてくださる先生方もいらっしゃいます。大学生活で自身が成長する環境はそろっています。あとは自分次第です！頑張ってください！



西松建設株式会社
建築環境工学研究室
2017年度卒業/私立朋優学院高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

設備の電気積算をしています。営業が入手した案件に対して、電気設備業者からの見積書を精査し、電気設備費用を算出することが主な仕事内容になります。時には、施工中の現場にパトロールや検査をしに行くこともあり、監理として担当現場の施工計画書や施工要領書といった、施工に必要な書類の確認をすることもあります。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

「給排水衛生設備」や「空調設備」、「建築環境工学及び演習」、「環境システム計画演習」といった科目を通して、機械図面の見方が分かるようになりました。

今後の目標を教えてください。

今は積算をしていますが、ゆくゆくは現場の人が施工しやすい設計を考えられる設計者になるべく、現場を学んでいきたいと考えています。

高校生へのメッセージ

大学では、勉強することも大事ですが、人とのつながりも大切にしたいと思っています。神奈川大学は学生数が多いため、意気投合できる人と出会える可能性は大いにあると思います。大学を卒業して社会人になっても、支え合っていけるような人たちにぜひ出会ってください。



公益財団法人日光社寺文化財保存会
建築史研究室
2011年度大学院修了/私立山梨英和高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

日光二社一寺(東照宮、二荒山神社、輪王寺)が所有する国宝および重要文化財建造物の保存修理を行っています。

日光にはこのような建造物が100棟ほどあり、江戸時代に社殿が建立されてから定期的に修理が行われ、これが現在まで続いています。私は修理技術者として、建物を調査してどのような規格で建てられたのかなどを精査し、図面におこす仕事を主にしています。建物を解体して(ほどいて)修理工事を行う場合は、部材ひとつひとつを実測し、どのように納まっていたのかを記録していきます。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

仕事では主にCADで図面を描きますが、文化財建造物の修理の際には「保存図」として手描きでも図面を描きます。また、建物を調査する際にも方眼紙にその場で図面を描くので、製図の授業や研究室での建物調査の活動に参加し手描きで図面を描く機会があつてよかったと思います。

今後の目標を教えてください。

修理技術者として少しでも長く働きたいと思っています。今はまだ補佐としての仕事をしていますが、10年近くこの仕事をしてきて、はじめの頃よりも今の方が建物の理解ができて楽しいので、より長く働きたいと考えています。

高校生へのメッセージ

私が高校生のときは、どうして古典や歴史、化学や数学を学ばなければならないのか、これが将来役に立つのか、勉強しながらもやもやしていました。でも、今では学んでおいてよかったと思います。現在のようない仕事に就くとは考えてもいませんでしたが、高校生の頃までに学んだことすべてが役に立っていると感じています。



mok architects・Johannes Torpe Studios Denmark Aps
建築計画研究室
2015年度大学院修了/私立北陸高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

コペンハーゲンを拠点としてヨーロッパを中心に、世界各国で建築・内装のプロジェクトを担当しています。それぞれの土地がもつ文化および歴史を読み取り、クライアントが伝えたいメッセージや訪れる人々の求めることなど、多岐にわたる複雑な要素をまとめあげ、形にする仕事です。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

設計課題や論文制作を通して学んだのは、おもしろいと思ったこと「なんとなくいい感じだから」という抽象的な理由で終わらせないこと。自分が見つけた新しい視点を研究・分析することでそのおもしろさを構成している仕組みを紐解き、それを自分の建築を語る言葉に翻訳していくプロセスを身につけました。建築の仕事は、さまざまな分野の専門家たちと進めています。それぞれの人にわかりやすくアイデアを伝える上でこのプロセスはとても役立っています。

今後の目標を教えてください。

人が体験する建築空間から、手で触れる小さなものまでトータルにデザインすることを今後も継続していきたいです。

高校生へのメッセージ

大きな研究室があることは神奈川大学のよいところですが、学部生から大学院生まで幅広い学年の学生が活動する研究室は、1年生から使用することができる環境と雰囲気があります。気軽にずっと居ていい場所や自由に使える設備があることは幸せなことです。古い貴重な本や建築本をはじめ、読みつくせないぐらいの本があり、さらに何十年も前の学生の作品や研究室の活動がアーカイブとして保管されています。



© Yuta Sawamura

株式会社スタンダードトレード
建築史研究室
1995年度卒業/私立桐光学園高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

家具を含めた空間をデザインから設計施工まで一貫して行い、一般個人住宅や店舗・オフィスなどを手掛けています。特に家具製作においては、横浜にある自社工場で伝統的な差物技法を用いて製作をしていますので、その技術力を評価され、歴史的建築物の家具修復や復元を任されることもあります。具体的にはフランク・ロイド・ライト設計の「自由学園明日館」の家具や小泉八雲の机など、幅広く修理修復に関わっています。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

建築への興味が薄れ、授業の好き嫌いが顔や態度に出てしまって先生や友人に大変な迷惑をかけてしまったのですが、実は今それが役に立っているのです。僕の仕事は、自分自身が楽しんでいるかが大きく結果を左右してしまう仕事です。納得できないものには悩む顔、ピンとくれば晴れた顔、そのことが僕の個性となり正直さを生んでいます。ぜひ、感情を表に出して学生時代を過ごし、社会に出ていく時も顔に出てしまわぬ人になってほしいと思います。

今後の目標を教えてください。

強いていうなら「今が続けば」といつも思っています。いつまでもどんな仕事でも自分が没頭し続けたい、ということが目標なのかもしれません。

高校生へのメッセージ

学生でも社会人でも、目標ややりたいことをスタート前から見つけられる人はひと握りだと思います。とはいえ、自分や場所探しの時間を続けていてもキリがありません。でも、大丈夫。わからないことこそ、未来です。どのような学校でもどのような会社でも、スタートを迎えたら没頭することをお勧めします。



株式会社オンデザインパートナーズ
都市デザイン研究室
2009年度大学院修了/大阪府立泉陽高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

横浜に拠点を構える設計事務所にて、住宅・集合住宅・商業施設・公共施設・まちづくりなど幅広いプロジェクトに関わっています。近年では、神奈川大学の新国際学生寮「栗田谷アカデミア」の設計を行いました。これはプロポーザルで選んでいただきましたが、私たちの仕事はまず、必要とされている建物にカタチを与えて、求めているものを目に見えるように具現化することです。意匠設計は、デザインのみを優先すると思われがちですが、建築のなかの専門分野を横断的につないで、より使う人に寄り添った建築空間にする仕事かなと思っています。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

私は大学院に2年間在籍しましたが、研究室では基本的にはプロジェクト単位で動くのでチームワークや他者との対話がとても重要でした。その他者との対話によってより建築の可能性が広がっていく実感は、実務でも生きていると感じています。また、設計の授業は、活躍されている建築家の先生に意見をもらいながら設計するので、非常に緊張感がありました。自身が考えている建築をコトバとカタチでプレゼンテーションする力がかなり鍛えられたと思います。

今後の目標を教えてください。

あまり大きなビジョンはないのですが、人のための住空間、生活環境をよりよくするために多様なスケールのプロジェクトに関わりたいです。

高校生へのメッセージ

建築という分野は本当に広く、神奈川大学はその楽しさを知ることができる場所だと思います! がんばってください。



コトラボ合同会社
都市計画研究室
2000年度卒業、東京大学大学院博士後期課程2011年度単位取得退学/
神奈川県立鎌倉高等学校出身

現在の仕事の内容を教えてください。

横浜でのまちづくり事業を皮切りに、日本各地の地域活性化などのまちづくりの仕事を行なっています。地域の資源を活用し、持続可能な取り組みとするためにビジネスの手法を組み込んで企画運営を行なっています。横浜では、石川町駅近くの寿地区において、地域の空き部屋をつなぎ合わせて「yokohama hostel village」と称したひとつの宿を運営し、地域のイメージづくりや環境改善などを行なっています。また、山手近くと旭区においてシェアカフェ事業も行なっています。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

仕事を行なっていく上で意識しているのは、街を俯瞰して見ていく視点。都市を観察して、その状況に即したプロジェクトを地域の資源を活用しながらつくり出していくことです。また、人間の寿命よりも長い時間尺度で都市や地域を考えていく視点。これらの視点は、今の経験に役立っています。

今後の目標を教えてください。

まちづくりの分野は、かつてはボランティアセクターとして位置付けられることが多かったのですが、地域課題や社会課題に取り組む社会企業も増えています。その流れの中で、事業として地域を楽しく快適にしていけるプロジェクトに関わり続けていくことが私の目標です。

高校生へのメッセージ

何を学ぶかは大事なことですが、誰とどこで学ぶかも非常に大切な問いだと思います。学生時代には同級生だけでなく、違う分野の人、社会人、クリエイターなどさまざまな人と出会いました。今でもその人達にいろいろと協力してもらっています。ぜひ学生時代にしかできない活動をチャレンジしてください!



鎌倉市役所
都市計画研究室
2008年度大学院修了/神奈川県立横須賀高等学校出身 鎌倉高等学校出身



現在の仕事の内容を教えてください。

地域の特徴を生かした都市景観形成の推進や、歴史的建築物の保存活用業務に携わっています。地元の自治会・町内会や商店会、建築家のみなさんと対話しながら地域独自のルールを考え、「鎌倉らしい景観・まちづくり」を進めていくことが、今の仕事の最大の魅力だと感じています。

学生時代の経験・学びで今の仕事に生きていることは何ですか？

修士では、地域のみなさんの活動をサポートするための「防災に関する空間表現手法」について研究していました。鎌倉市を研究対象としたことがきっかけで鎌倉がとても好きになり、縁の下力持ちとして地域を支える「地方公務員」として、鎌倉市役所に就職しました。また、「建築史フィールドワーク」の授業での経験が、現在の「歴史的建築物の保存活用業務」にも役立っていると思います。

今後の目標を教えてください。

この7年間で培った経験や人とのつながりをこれからも大切に育てながら、建築技術職としてのさらなるスキルアップを図ってきたいです。また、去年はワークショップデザイナーの学校に通いました。ワークショップを企画・運営できる職員として、鎌倉市民のみなさんが興味・関心を生かし、笑顔で楽しくまちづくりに関わる場を創ってきたいです。

高校生へのメッセージ

大学で過ごす時間は長い人生の中の通過点に過ぎませんが、大学は自分の興味・関心をとことん掘り下げ、思いっきり表現(活動)できる素敵な場所であると思います。そして、神奈川大学にはみなさんの活動をサポートしてくれる環境が整っています。



Credits

神奈川大学 建築学部ガイドブック

JINDAI KENCHIKU 2024

—

編集・発行者：

神奈川大学建築学部

〒221-8686

神奈川県横浜市神奈川区

六角橋3丁目27-1

Tel: 045-481-5661

—

発行日：

2024年3月発行

—

編集：

飯田彩 / Design Communicator

—

ブックデザイン：

刈谷悠三+角田奈央+久保海音 / neucitora

—

印刷：

高速印刷 株式会社

グラフィック

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—



JINDAI ARCH

[JINDAI KENCHIKU Web]

<https://www.arch.kanagawa-u.ac.jp/>

沿革

- 1928 米田吉盛が「横浜学院」創設(旧横浜市中区桜木町)
- 1929 専門学校令により「横浜専門学校」設立認可
- 1930 六角橋に移転、横浜キャンパス開設(5月15日 創立記念日)
- 1949 学制改革により「神奈川大学」設置
- 1952 神奈川大学整備拡張計画(設計:山口文象/RIA)
- 1965 神奈川大学工学部建築学科創設(初代学科長:谷口忠教授、定員80名)
8号館(建築学科研究室、製図室)竣工
- 1967 12号館(建築学科総合実験棟)竣工
- 1971 大学院工学研究科建築学専攻修士課程設置
- 1973 かなな会(建築学科同窓会)設立
- 1982 同済大学(中国)、武漢理工大学(中国)と学術交流協定を締結
- 1985 建築学科創設20周年記念誌発刊
- 1990 大学院工学研究科建築学専攻博士課程設置
- 1994 建築学科にシステムコースとデザインコースの2コース制導入
- 1998 横浜キャンパス再開発開始(2002年完了)
- 2002 成均館大学校(韓国)と学術交流協定を締結
- 2003 RAKU(デザインコース年鑑)vol.1 発刊
- 2005 国立台湾科技大学(台湾)と学術交流協定を締結
JABEE 認定
- 2006 建築学科に建築環境コース、建築構造コース、
建築デザインコースの3コース制導入
第1回東アジア建築都市学術交流セミナー(以後毎年開催)
日本建築学会120周年記念大会を神奈川大学で開催
- 2008 神奈川大学創立80周年、「学校法人神奈川大学将来構想」公表
- 2010 デンマーク王立芸術アカデミー建築大学(デンマーク)と
学術交流協定を締結、交換留学(部局間)開始
- 2013 国立台湾科技大学(台湾)と交換留学(部局間)開始
国立モンペリエ高等建築学校(フランス)と
学術交流協定を締結、交換留学(部局間)開始
- 2015 建築学科創設50周年
- 2022 建築学部を新設
建築学系と都市生活学系の2学系に、構造、環境、
デザイン、住生活創造、まち再生の5コースを設置

神奈川大学建築学科は、1965年4月に「新しい人間生活の環境をつくり、秩序ある社会生活の場所を建設する技術者の養成」を目的として創設された。創設当時の教員は、『神奈川大学学報』(第76号1966年1月6日)において「日本の建築構造学の最高峰としてまた世界の地震工学会にいろいろの学説で有名」と紹介される谷口忠を中心として集められ、谷口のほか堀口捨己、竹島卓一、白濱謙一、津下一英、川崎浩司を専任としてスタートした。以降各分野のそうそうたる教員が加わって現在に至り、2015年に創設50周年を迎えた。2022年に工学部建築学科を母体とした建築学部を新設。